

授 業 科 目 の 概 要

科 目 名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
心理学	(1)多様な心理学の分野とその歴史や基本理念の理解(2)感覚・知覚、学習、記憶、感情・動機づけ、発達、臨床などの分野(3)性格・パーソナリティ、社会と人間行動・心理、また、地域や社会との関わりなど応用的な心理学の分野についての基礎理論を修得する。
文学	日本の近現代文学はいかなる内実を持ち、そこにいかなる価値を見出せるのか。「文学」では、明治以降の詩歌、小説、童話など具体的な作品を概観しながら、文学の面白さやその価値にふれる。その際、作品個々にアプローチする方法を紹介し、学生自身が文学を主体的に読む姿勢を養う。また、映画やマンガ、アニメーションなども教材として取り上げ、文学が周辺分野といかに関わっているのかも確かめる。それらによって、文学を分析するための観点を具体的に教授する。
保育原理	本科目は、保育者になるための最低限の知識、理論やスタンスを学習し、保育現場における原理と特性、環境、方法について理解していく。具体的には、特に保育思想とその歴史の変遷についてを中心的に学びながら、現代における様々な保育問題について理解する。そしてその上で、より実践的な視点から、保育者として、現場においてどう活かすのかを個々の学生に考えてもらうことをねらいとしている。さらに、保育の現状と課題や問題点、諸外国の状況についても言及する。
保育者論	本科目は、保育者という仕事の魅力ややりがい、意義や重要性、役割等様々な側面を理解するために、できるだけ実践の事例を取り上げて、講義を進める。幼稚園教諭、保育士を包括して保育者と理解したうえで、幼稚園教諭と保育士の違い、幼稚園教諭、保育所保育士、施設保育士それぞれにおける保育者の基本的考え方やあり方について学ぶ。保育者の役割と倫理、制度的位置づけ、保育者の専門性、専門職としての成長について学ぶ。加えて、幼稚園、保育所等からゲストスピーカーを招き、現場の保育者の専門性、成長、課題等について学ぶ予定である。
子どもの保健	現在の小児保健の現状と子どもの心身の健康増進を図る保健活動について学ぶ。保育専門職として、子どもの健康と評価方法を理解し、様々な疾患や障害、子どもの病気に特徴的な症状と保育者としての対応について知識を深める。そのため、成人とは違う子ども特有の生理機能・運動機能を学習しながら、現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を踏まえ、母子保健・地域保健活動を通して、保育士の役割について考えていく。
教育原理	西洋と我が国における教育の理念、教育思想の歴史的、思想的展開を手がかりに、教育思想や学校や家族、社会における教授—学習の本質を理解する。さらにそれをとおして正しい教育観や子ども観、学校観を形成する。さらに、問題解決学習や参加型メディア教育における学びを手がかりに、学習の意義や学校における教授—学習の在り方を具体的に理解する。
教育制度論	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校をめぐる近年の政策動向や制度改革について理解する。 2. 子どもの生活環境等の変化に応じた指導について理解する。 3. 諸外国の学校教育制度改革等について理解する。 4. 学校教育制度の課題を把握する。 5. 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、理解する。 6. 学校の管理下で起こる事件、事故及び災害等について学び、関連法令に基づく学校安全の取り組みを理解する。
乳児保育 I	乳児期は人間形成の基礎ができる重要な時期である。乳児を取り巻く環境を踏まえ、乳児保育の歴史の変遷や母子保健の統計から現状を理解する。保育所や乳児院で乳児保育（3歳未満児）を担当する保育士として、必要な保育の理論や知識、技術的な基本スキルについて学ぶ。乳幼児期（3歳未満児）の成長や発達、生活、遊び、環境、保健等についての基本的な知識を身に付けるとともに、低年齢児の保育の概念と意義、発達段階に応じた保育者としての関わりについて学びを深める。
日本の言語と文化Ⅲ	この授業では、平安時代の文学作品『竹取物語』を国語学的に購読する。初めの数回は教員が講義を行う。以後は担当箇所を決めて、受講生が発表を行う。発表に際して、受講生には翻字、語句調査、現代語訳、日本語の問題点についての調査・考察を課す。それらの作業を通して、当時の人々がどのような日本語をもっていたのかを理解することを目標とする。併せて、自分で問題を設定し適切な用例（データ）を収集したうえで、調査・考察する力を養成したい。